

学校統合により生じる課題への対応  
(参考資料)

○通学路の安全確保に関する対応

・統合に伴い徒歩や自転車での通学距離が長くなる場合は、不審者による犯罪や交通事故の防止等のために下記のような取組の更なる徹底を行う必要があります。

【主な対応例】

@通学路の安全点検を教職員や保護者で定期的実施し、要注意箇所の把握・周知を徹底する。

@学校安全ボランティアの養成・配置を含め、児童生徒の登下校を地域全体で見守る体制を整備する。

○児童生徒にとっての環境変化への対応

・学校統合により学校規模が拡大することに伴い、児童生徒の学習環境や生活環境、教職員との関係等が大きく変化するため、新たな生活に戸惑いが生じることに配慮が必要です。こうした問題がなるべく生じないよう、例えば下記のような工夫を統合前に行っておくことも考えられます。

【主な対応例】

@学校行事や部活動等において統合予定校の児童生徒同士の交流を行う。

@学習規律や生活規律等に関するルール、生徒指導の方針・基準等について統合対象校間で調整しておく。

・学校統合後も、児童生徒の新たな環境への適応を継続的に支援する観点から、必要に応じて、例えば下記のような工夫を行うことも考えられます。

【主な対応例】

@スクールカウンセラー等の支援を受けられる体制の整備。

@不安や悩みに関するアンケート調査の継続的な実施、必要に応じた家庭訪問又は面談の実施及び児童生徒の人間関係を早期に構築させる観点から、学校教育活動全体を通じた意図的な集団編成。

○地域との関係の希薄化を防ぐ工夫

・統合に伴い、通学区域が拡大することや、一部の地域から学校がなくなることにより、統合後の学校と地域との関係が希薄化することが懸念されます。このため、例えば下記のような、「学校が関わる地域が広がること」をメリットとして最大限生かす取組を工夫することが考えられます。

【主な対応例】

@コミュニティ・スクールや学校支援地域本部を導入する。

@統合対象各地区の行事と連携した年間計画を作成する。

【参考文献】平成27年1月27日 文部科学省

「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」より抜粋